



2月のほけんだより



2月3日は立春。暦の上では春の始まりの日ですが、まだまだ寒い日が続いています。園では1月下旬頃から発熱や咳・鼻水等の風邪症状で欠席・早退されるお子さんが急増しています。体調がすぐれない時は早めの受診や休養を心がけ、睡眠・栄養を十分にとって身体の回復を促しましょう。

保健師 牧野 利香

冬の風邪が流行しています

0～5歳児の各クラスにおいて、発熱や咳・鼻水等の症状があり、風邪と診断されたお子さんが増えています。症状が見られる場合は早めに受診し、その時のお子さんの症状に合わせて適切な治療を受けるようにしましょう。



咳がひどい場合、ご家庭では以下をポイントに過ごしましょう。

部屋を暖かくして湿度を上げる

空気が乾燥しているとのどを痛めます。部屋の換気や温度・湿度を調整しましょう。

水分補給を

少量の湯ざまし、お茶等を頻回に補給しましょう。

背中をさする

上体を起こして背中をさすったり、抱っこしたりして安心させましょう。

身体測定日

3歳以上児 2/16(火)

3歳未満児 2/17(水)

当日は着脱しやすい服装で、髪を結んでいる場合は頭の上には結ばないようお願いします。



新型コロナウイルス感染症対策について

千葉県内では、昨年12月26日に感染者が累計1万人を突破し、そこからわずか29日間で2万人を超え、感染拡大のスピードは急激に速まっている状況です。

万が一、お子さんや同居するご家族が以下に当てはまる状況となりましたら、速やかに園までご連絡ください。

また、検査結果がわかるまでは登園を控えていただくようご協力をお願いします。

- お子さんに症状がありPCR検査を受ける場合
- お子さんが濃厚接触者に特定されPCR検査を受ける場合
- 同居するご家族に症状がありPCR検査を受ける場合
- 同居するご家族が濃厚接触者に特定されPCR検査を受ける場合

感染症発生・流行状況

(1月末現在)

- ひまわり組
- さくら組
- すみれ組
- もも組
- れんげ組
- いちご組
- すずらん組
- たんぽぽ組

12月に続き1月も溶連菌感染症が2名発生しましたが、感染の流行は見られませんでした。日頃より感染症対策にご協力いただきありがとうございます。

※感染者が発生した場合は、各クラスや昇降口に発生状況を掲示しますのでご確認ください。

冬場のやけどに注意

冬は暖房器具によるやけどの事故が増える時期です。ストーブやヒーターだけでなく、加湿器の蒸気、熱い食べ物に触れてのやけど、カイロやホットカーペットによる低温やけどにも注意が必要です。

誤ってやけどをしてしまったら、とにかく流水で冷やすこと。最低でも15～30分は冷やします。その後、症状によって病院で診てもらいましょう。

こんな時は救急車を！

広い範囲に広がるやけど
体表面積10%以上のやけど(子どもの場合
顔や手足の面積がほぼ10%です)

第2度(水ぶくれ・ただれ・激痛がある)以上のやけど

乳幼児は細菌に感染しやすいので、軽症と思っても念のため外科へ受診を。

低温やけど

意外と深いやけどになっていることも。気づいたらすぐに冷やして外科へ。

顔や陰部のやけど

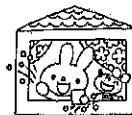
特に気をつかう場所。医師の適切な処置を。

衣服がくっついてはがれない
無理にはがさず、くっついた部分は残して切り取り、清潔なシーツなどで覆って外科か皮膚科へ。

水ぶくれが500円玉より大きい
ガーゼなどで保護して外科へ。



節分の豆の誤嚥に気をつけて！



奥菌が生えそろうわず、かみ砕く力や飲み込む力が十分でない子どもが豆やナッツ類を食べると、のどや気管に詰まらせて窒息したり、肺炎を起すリスクがあります。

節分の豆まきは、個包装されたものを使用するなど工夫し、事故のないようにしましょう。

花粉症の子どもが増えています

日本気象協会によると、今年の花の飛散は平年並みで昨年よりも多く、2月上旬から飛散がスタートし、3月には各地でスギ花粉がピークとなるそうです。

鼻や目などのつらい症状は、集中力を低下させ日常生活に大きな支障を与えます。

また、子どもの花粉症は気管支喘息やアトピー性皮膚炎などの他のアレルギー疾患との関わりがありこともあります。

気になる症状が見られたら、早めに受診して症状に応じた治療を受けましょう。

